

2015年9月9日、練習艦隊艦上レセプションにおける株丹大使スピーチ

皆様、こんばんは。

本日は海上自衛隊練習艦隊のペルー共和国来航に際し、中畑司令官とこの艦上レセプションを開催し、ここで皆様にお会いできることを大変嬉しく思います。

ペルーはアンデス高地のマチュピチュ、海岸地域のナスカ地上絵、そして今もジャガーやアナコンダが棲む大ジャングルといった、多様な自然と文化を有する国です。

また、ペルーは世界一と言われる豊かな漁場を持っています。ペルーは海の重要性に注目し、チリ、エクアドルと共に、初めて領海 200 海里を主張した国であり、海鮮料理セビッチェが有名な国です。そしてなによりも、ペルーは英雄ミゲル・グラウ提督が生まれた、海の国である。

島国である日本にとってペルーは、日系移民の存在を通じて友好を深め、互いに尊重し合うことができる、兄弟のように深い交わりを続けている国であり、「海」というのは両国にとって重要なキーワードとなります。また、日本とペルーは太平洋という「海」を挟んだ隣国でもあります。

「ここに陸終わり、海始まる。」

ポルトガルの詩人の言葉ですが、黄金の国ジパングを目指した海の男に向けられたものです。

現在の日本に黄金は僅かしか無く、寧ろペルーがジパングである訳です。

本日の交流は、奇縁と言えるかも知れません。

.

今日、日本とペルーを結びつけるのは大海、太平洋です。

陸が終わるとき、そこには何も無いのではなく、海があります。そこには全ての可能性が開かれているのだと感じます。

大海の深さ、自然の脅威を恐れずに、太平洋に乗り出していく海上自衛隊実習幹部

の皆様が、太平洋にその名の通りの平和をもたらす存在とになりますことを心から祈念するとともに、本日のレセプションが日本とペルーの友好協力関係の一層の緊密化に役立つことを期待致します。

ありがとうございました。